

1 部

学習サポート

5 / 9 ~ 6 / 12の各種申込締切一覧

通信教育部では各自のペースで学習していただくことを基本としておりますが、各種の申込みは下記の日程必着をお願いいたします。

(注) 備考欄の『レポート課題集』参照ページについては、『試験・スクーリング 情報ブック2012』1部に記載の変更内容も併せてご確認ください。

■全学生に関連するもの

| | 提出物 | 締切日 |
|-------------------------|-----------------|----------------------------------|
| 6月科目修了試験 | レポート・ 申込みハガキ | 5月31日(木) |
| 夏期スクーリングⅠ (6/15~7/8) | 申込みハガキ | 5月24日(木) |
| オンデマンド・スクーリング | 申込みメール | 5月16日(水)正午 ほか本冊子 p. 40 表参照 |

| | 受付日 |
|--|--|
| レポート (レポートはいつ提出してもよいものですが、受付日の午前中到着分までについて、まとめて教員に依頼します。ひとつの提出目標として目安にしてみてください。) | 5月11日(金) 5月22日(火) 5月31日(木) 6月12日(火) |

※「スクーリング受講者専用別レポート」は、受講後1カ月以内

■社会福祉援助技術演習・実習関連

| | 締 切 日 | 備 考 |
|---|------------------------|---|
| ★社会福祉援助技術演習A・◆演習I スクーリング受講申込用紙 (『With』82号巻末) + 1単位めレポート (スクーリング事前レポート) 受講条件のためのレポート | 6～8月受講希望者 →5月31日(木) | (注) 『レポート課題集 2011(1・2年次)』 「★演習A」 p.190～194 「◆演習I」 p.125～131 |

※『レポート課題集2012暫定版(社会福祉編)』所持者はp.108～113参照。

■精神保健福祉援助演習・実習関連

| | 締 切 日 | 備 考 |
|-----------------------------------|----------------------|--|
| 精神保健福祉援助実習 課題1 (事前課題：実習計画案) | 7/8受講希望者 →6月6日(水) | (注) 『レポート課題集 2011(3・4年次)』 p.83～97 |

※『レポート課題集2011(3・4年次)』p.83～97精神保健福祉援助実習の変更点は、
該当者に3月中旬に文書にて郵送案内済み。

■教育実習・障害者(児)教育実習・介護実習関連

| | 締 切 日 | 備 考 |
|--|---------------------------------|--|
| 教育実習・障害者(児)教育実習 誓約書・健康診断書(・個人調 査票のコピー)提出 | 7月実習開始者 →5月15日(火) | ※事前指導受講済 者のみ対象 |
| 障害者教育実習の事前・事後指導 事前指導スクーリング受講免除届 | 7/28・29受講免 除希望者 →5月25日(金) | (注) 『レポート課題集 2011(3・4年次)』 p.283～288 |

※6期入学者は『レポート課題集2012暫定版(社会福祉編)』巻末

■その他

●オンデマンド・スクーリング受講者

試験レポート提出締切 5月11日(金)ほか(科目によって異なる)

※『With』82号 p. 44表参照

●スクーリング受講者専用別レポート提出締切

スクーリング受講後1カ月以内(「生涯発達心理学」4単位目など論述式を除く)

※『学習の手引き』p. 6(2008補訂版はp. 4)

※対象科目は『レポート課題集2011(1・2年次)』p. 17~18

オンデマンド・スクーリング受講者は、当該科目の試験レポート提出締切後1カ月以内(5部の新・オンデマンドシステムの受講者からはネット上の提出・採点を原則とします)

ふたつのこと

通信教育部副部長・教授 三浦 剛

教員 MESSAGE

1. 意志を持ち続け継続する

通信教育で学ぶことには、通学課程で学ぶのとは異なるむずかしさがあります。それは「継続する」ということです。自分の意志でペンを執り、そして一字一字文字を記していく作業を独りで続けていくことにはとても強い気持ち必要とすることでしょう。誰かから指示されるわけでもなく、また隣に共に学ぶ人も見えない中で、学ぼうという意志を持ち続けるのはたいへんなことです。明日やればいい、提出期日はまだ先だ、今は仕事が忙しいから、家のことがあるから、いくらでも机に向かわない理由があります。それを押して学び続けることの意味はとても大きいと思います。

震災の後、ある地域の保育所の支援にかかわっています。津波で亡くなった卒園生の確認のために、園に残っていた写真を提出する、そんなつらい仕事をしなくてはならなかったところです。はじめ、私たちは保育士の身体的な負担を少しでも軽くすることができないかと、保育を代替する保育士を派遣したり、心のケアのために臨床心理士を派遣してカウンセリングを行ったりしました。これらの活動はそれなりに効果を発揮することはできたものの、もっとも彼女たちを元気にしエンパワメントが図れたのは、毎日続く保育の仕事の専門性を高めるための講習会を実施することで。「根拠に基づく保育とは」「発達指標の使い方」等より高い専門性の獲得に向けた知識と技術を学び、休暇をとったりカウンセリングを受けたとき以上に晴れやかな表情になり、再び子どもたちと向き合っていく様子が見られました。日々の仕事を立ち止まらずに続けていくこと、その大切さを知ることができました。

昨年4月、震災のほんの数週間後、津波の被害を受けた地域からレポートが届きました。

継続は力なりとよく言われますが、これは継続することによって実力がつくということだけでなく、ひとつのことを続けていくことが、私たちの生きていく力の原動力になるということなのではないかと思っています。それが学ぶことであつたら、なんとすばらしいことでしょう。

2. 現実と関連づけて学ぶ

通信教育で学ぶということのひとつのキーワードが「継続すること」だとすれば、もう一つのキーワードは、特に社会福祉を学ぶ場合、「現実との関連づけ」だと思います。レポートの評価項目にもこの現実との関連づけという項目があります。このことを少し考えてみたいと思います。

社会福祉学のように「実学」といわれる分野では、現実におこなわれる実践を集めてモデル化し、理論化、体系化を図ることが多くあります。ところがこのようにして概念化が進むと、その実践の背景にある(あった)現実は見えにくくなってしまいます。たとえば社会資源開発、地域支援システムとはなにか、その概念を文献で調べれば定義、プロセスや実践モデルについて知ることができます。地域支援システムを構築するためにソーシャルワーカーは質的、量的調査を行い地域のニーズを把握した上で、専門機関のコーディネートをを行い、地域のインフォーマルな資源を活用し…などのプロセスが実施され、専門技術が使われることが分かります。さぞかし立派な「システム」を想像することでしょう。しかし、現実には、新聞屋さんや宅配業者、商店街の連絡網を使った独居老人の安否確認のしくみだということもあります。理論通りきちんと設計されたものならば、その形がどうであれ、支援システムとして十分に機能することができます。

理論や概念を知識として学ぶのにとどまらず、実際の支援はどのように

おこなわれるのか、常に具体的なイメージを持てるように学習することが大切だと思います。そのためには一定の視点（論理）を持ってたくさんの事例を読み込むことが大切です。

現実との関連づけが大切であるということには、もう一つの面もあります。それは社会福祉が扱う問題は社会問題であるということです。問題は常に私たちと私たちが暮らす現実の社会環境との間で生じています。貧困や社会的排除、通常的生活を送ろうとした時に直面するさまざまな困難などの問題が、個人と環境の間の相互作用で生じていることを意識して、個人的な要因だけでなく、現実の社会に関心を持ち続けることが必要です。そしてその問題の解決には、私たちの社会が責任を負うということをしっかり心にとめて学んでいきたいと思います。そのような意味で学びと現実との関連づけを深めることが求められるのではないのでしょうか。

これから東北福祉大学で 心理学を学ぶ皆さんへ

0. はじめに

福祉心理学科へ入学された皆さん、ご入学おめでとうございます。新年度を迎え、新たな学びに対する期待と不安を感じてらっしゃるのだろうと思います。ここでは、心理学を学ぶことの面白さ等について、私の学生時代のことなどを思い出しながら書かせていただきたいと思います。この文章を読んでいただいて、心理学を学ぶことに対する皆さんの意欲がさらに少しでも高まれば幸いです。

1. 「心」とは…

まず初めに、私から皆さんへ1つ問題を出したいと思います。どうぞ皆さんなりの答えを考えてみて下さい。

【問題】 次の文章の[]を埋めて、文章を完成させて下さい。

『心は、[]のようなものだ。

なぜなら[]だから。』

皆さんは、[]の中にどのような言葉を入れたでしょうか？ 実は、この問題は、私が大学で心理学の基礎的な講義を担当していた際に、1回目の導入の時間に学生の皆さんに考えてもらっていた問題です。学生の皆さんの答えは実に様々で（たとえば、「海」「宇宙」「ガラス」「福袋」「空気」「山の天気」など）、「心」のイメージが非常に多様で複雑であることがわかります。そして、この多様性こそが、目に見えない「心」につい

での理解を目指す心理学の難しさを物語っているのだらうと思います。

2. 「心」とは「鏡」のようなものか？

この問いに対する学生の皆さんの答えの中で、時折見られるのが『心は、[鏡]のようなものだ』という答えです。「心」の現実を映し出す側面、さらには、周りの環境に大きく反映される側面が、このようなイメージと結びついているのだと思います。確かに、私たちの「心」は生活する環境や社会・文化の影響を少なからず受けるという点で、この答えは「心」の一側面をとらえていると言えるでしょう。

しかし、私が大学生の頃、はじめて学問としての心理学を学び、その面白さを感じたのは、このようなイメージとは異なる「心」の働きについて意識させられたからでした。たとえば、右の図1・図2を



見せられた時、皆さんならこれらの図をどのように理解するでしょうか。図を初めて見た方の多くが、いとも「簡単」に、図1を「じゅうに、じゅうさん、じゅうし」、図2を「エー、ビー、シー」と理解するのではないかと思います。しかし、このような理解は、実際には必ずしも「簡単」なものではありません。というのは、図1と図2の真ん中の図形（「じゅうさん」と「ビー」）は実はまったく同じ図形であり、同一の刺激なのです。つまり、実際には「同じ」図形に対して、「異なった」意味を見出し、異なった反応をしていたのです。

もし、「心」が現実を忠実に受身的に映し出す「鏡」のようなものであれば、実際には「同じ」ものを「違う」と理解するようなことが生じるはずはありません。むしろ、このようなことが生じたのは、「図1は数字が並んでいる」、「図2はアルファベットが並んでいる」と私たちの方から積極的に解釈した上で、これらの図を理解していたからに他なりません。つ

まり、与えられた刺激に対して積極的、能動的にかかわり、何らかの「意味」を見出そうとする「心」が働いたのです。

3. 私の感じる心理学の面白さ

このように、わたしたちは環境や刺激の影響をただ受身的に受けるだけでなく、意識的、無意識的にそれらに積極的にかかわり、何らかの「意味」を見出し経験しながら行動しているということが出来ます。そして、そこで見いだされ経験される「意味」は、人によって、または状況によって、様々なものなのだろうと思います。この「心」の積極性、さらに、そこで経験される「意味」の豊かさこそが、私が大学の頃心理学を学んで面白さを感じた（そして今でも面白いと感じる）部分なのでした。

さらに言うと、人の行動を理解し、人とのかかわりを考える時、この点について念頭に置いておくことが非常に大切だということも心理学を通して学ぶことができたと思っています。たとえば、「頑張る」という言葉は、一般的には、悩んでいる方や、（皆さんのように）これから何かに取り組もうとしている方に対する励ましの言葉です。その一方で、この励ましの言葉が「すでに頑張っているのにさらに何を頑張ればいいんだ」などのように受け止められた結果、逆に悪い影響を及ぼしてしまう場合があることが指摘されています。また、私には現在4歳になる息子がいます。その息子に対して、たとえば新しい服を着た時等に「かわいいね」とほめると、以前であればとても満足そうな顔をしてくれていました。ところが、現在ではそれでは満足してくれず、「男の子だから、かわいいじゃなく、かっこいいだよ」と不満を言われたりします。「かわいい」の「意味」が息子の発達に伴って変わってきたのですね。（そして、このような子どものささいな変化の中に発達を見出し、親として共感し、喜びを感じられる点も、私がこれまで心理学に関わってきて良かったと思える点です。）

4. 心理学を学ぶと人の「心」がわかるか？

これまで、私が感じてきた心理学の面白さについて述べてきました。しかし、心理学を学べば、ある状況で個人が経験している「意味」をすべて十分に理解できるかと言われると、そこには限界がありはなはだ疑問です。その意味で、「心理学を学んでも人の「心」がわからない」と言えるでしょう。ただし、心理学の学習を通して、個人が経験する「意味」を念頭に置くことの大切さをその都度意識させられるという点では、心理学の学習は有意義なものだろろうと思います。さらに、心理学を学ぶことで、個人が経験している「意味」を考える際の、そして、その人とのかかわり方考える際の、手がかりや枠組みを得ることができるのではないかと思います。その意味で、心理学は限界がある半面、現実の場面で多様な「心」について私たちが探求していく上で大変有効なものだろろうと思います。

これに関連して、私が通信教育部での学習の中で皆さんに大切にしてくださいたいことがあります。それは、多くの方が苦労されることになるだろろうレポート課題です。レポート課題では、課題の内容に沿った形で、学習された内容をまとめていくこと、さらにそれについて考察することが求められるだろろうと思います。その際、まとめた内容をご自身の経験や周りの方々の経験と照らし合わせ、課題に沿った範囲でレポートに盛り込んで頂きたいのです。つまり、学習内容を1つの枠組み・手がかりとして、具体的な経験を見直して頂きたいのです。そうすることによって、心理学の学びがより豊かなものになると思います。

5. 「心」とは「悪と戦うヒーロー」のようなもの！

最後に、冒頭で紹介した問題に対して私がこれまでに出会った学生の答えの中で、非常に印象に残っているものを1つ紹介したいと思います。そ

それは『心は、[悪と戦うヒーロー] のようなものだ。』という答えです。「ヒーロー」というイメージ自体非常にユニークだったのですが、この答えが私にとって印象深かったのは、むしろ、『なぜなら [] だから。』の部分の内容でした。では、そこにはどのような理由が書かれていたのでしょうか？（時間のある方は、少し推測してみてください。）

それは、『なぜなら [やられる（失敗する）度に、強くなり、パワーアップする] から。』という理由でした。私は、とりわけ「福祉」について考えた時、このような「心」のイメージを念頭に置くことが非常に大切なのではないかと思います。というのは、失敗したり困難に直面したからこそ強くなれる「心」のたくましさを信じ、そのたくましさが発揮されるよう支え促していくことが、「福祉」という営みの基盤になるのではないかと思うからです。教員と学生で立場こそ異なりますが、「福祉」と名のつく大学・学科に集った者同士、このような「心」のイメージを共有し、多様で豊かな「心」を探求していければと思います。どうぞ、よろしくお願い致します。